

P29 埋伏過剰歯含歯性嚢胞が原因で起こった位置異常歯に対しての萌出誘導症例

A case of eruption guidance for the tooth with malposition that was caused by impacted supernumerary tooth with dentigerous cyst.

○ 山口真理子、葉山康臣、柳田憲一、本川 渉

Mariko Yamaguchi, Yasuomi Hayama, Kenichi Yanagita, Wataru Motokawa

福岡歯科大学成長発達歯学講座成育小児歯科学分野

Division of Pediatric Dentistry, Department of Oral Growth and Development, Fukuoka Dental College

【緒言】含歯性嚢胞は、下顎小白歯部、上顎前歯部に好発するが、過剰歯が原因となっている症例は少ない。今回演者らは、上顎正中部埋伏過剰歯が原因と考えられる含歯性嚢胞に対し、過剰歯抜去後に開窓を行った。その後オブチュレーターを使用して上顎中切歯の萌出誘導を行い、1年9か月間経過観察を行ったので報告する。

【症例】患児：5歳9か月 男児

初診時年月日：平成18年2月7日

主訴：上顎前歯部の嚢胞の精査及び処置依頼

口腔内所見：上顎右側乳中切歯歯根相当部唇側歯肉に僅かな膨隆を認め、羊皮紙様感を触知した。

レントゲン所見：上顎正中部に埋伏過剰歯の歯冠を取り囲む嚢胞を認めた。上顎右側中切歯と上顎左側側切歯は嚢胞と接し、共に遠心に圧迫され、捻転も認められた。

【処置及び経過】全身麻酔下にて、上顎右側乳中切歯の抜歯、過剰歯の摘出及び開窓を行った。病理組織学検査により、埋伏過剰歯が原因の含歯性嚢胞と診断された。開窓部にオブチュレーターを装着し、定期的に調整を行い上顎右側中切歯の萌出誘導を行ったところ、術後1年9か月でほぼ予定していた位置に萌出させることができた。

【考察】本症例では埋伏過剰歯による含歯性嚢胞の為、永久歯胚が大きく偏位していた。そこで患児に装着したオブチュレーターは、歯胚位置異常を起こしている上顎中切歯の萌出誘導を行うと同時に、保険と審美的回復を行えたことから、本症例には有効な手段であったと考えられた。